

「全社BPRの視点」からの 物流コストダウン支援 に関するコンサルティングのご案内

全社的な物流コストダウンへの取組みを
サポートさせていただきます

物流コスト削減が
思うように進まない

3PLなどへの
業務委託を推進したい

輸配送コストの
削減が進まない

アイテム数の増加で
在庫が増え続けている

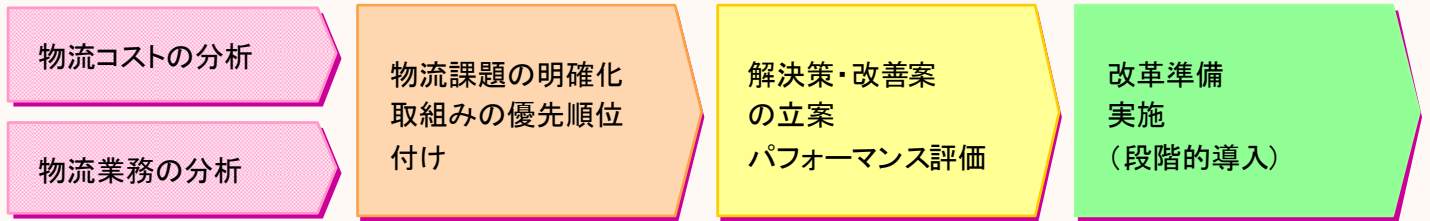
物流拠点多く
コストが掛かっている

はじめに

物流コストは販売費／一般管理費に大きな割合を占めるため、企業にとってこのコスト削減は極めて重要な課題となっています。多くの企業では既に物流コスト削減への取組みを進めておられますが、物流業者に対する単価カットなど、場当たりの対応が多く見られるのも事実です。

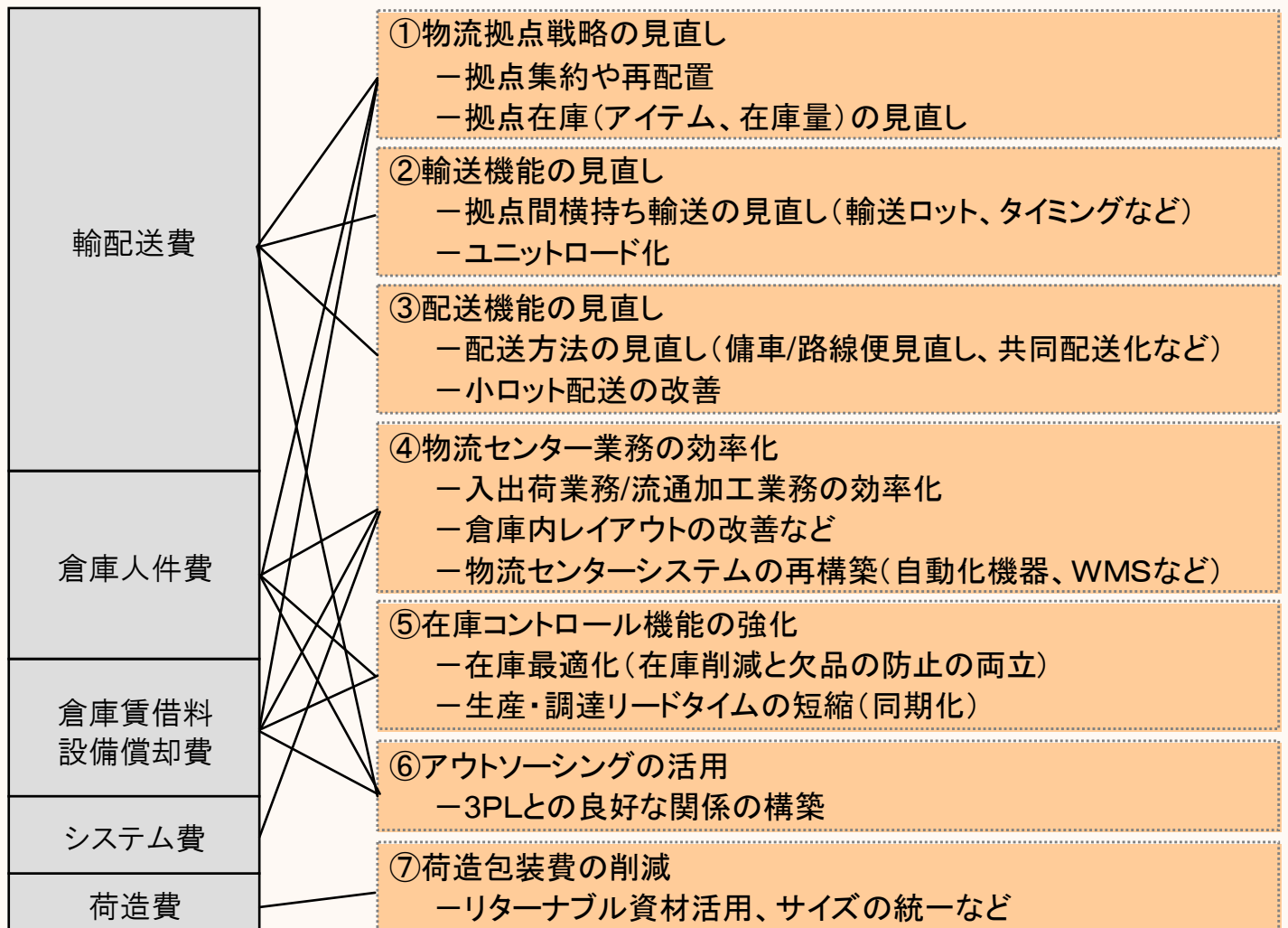
当研究所では、トータル物流コストの大幅削減のためには、「**全社BPRの視点**」から**コスト削減への取組みを進めることが不可欠**と考えております。物流コストの分析、課題の明確化、解決策・改善案の検討、パフォーマンス試算などを実施し、抜本的かつ実行可能な業務改革案を策定いたします。

また、計画立案のみならず、実施準備から成果の刈り取りまでフォローさせていただくことが可能です。



物流コスト削減の視点

下図は一般的な物流コストの内訳と、対応する改革案の視点を整理したものです。各企業の業界や置かれた立場によって、取組みの重点ポイントは変わってきます。



物流コストダウン事例

事例 1

クロスドッキング配送、デポの廃止・統合及び共同配送の活用による物流コストダウン

企業概要

著名な食品メーカー。工場は関西の拠点のみ。そこから全国に配送。売上規模200～300億円。

問題点／課題

従来からの主要得意先であった酒販小売店の衰退により、物流業務の中心であった直配ルートが大幅に悪化していた。運送会社は当該会社への依存度が高く、丸抱えになっていたため、物流量の低下とともに構造的な問題を露呈していた。

実施内容と成果

- ・工場から中継拠点までは大型車両で輸送し、ここで小型車両に積み替えて顧客まで配送する方式を採用した。(クロスドッキング方式)また、末端輸送は運送会社の提供する共同配送サービスを利用した。これにより、関西圏のデポ4箇所をすべて廃止し、**年間1.5億円程度のコスト削減を達成した。**
- ・関東圏についても、拠点の集約、在庫品目の絞込み、クロスドッキング配送の採用、アウトソーシング先の変更などにより、**年間0.5億円程度のコスト削減を達成した。**
- ・また、東北圏については納品リードタイム短縮と物流コスト削減を目指し、新たにデポを設置した。デポに在庫する品目の決定、輸配送コストのシミュレーションを実施した。

事例 2

物流拠点の集約と商物分離の徹底(建設用／産業用部品製造業)

企業概要

建設用／産業用締結材のメーカー。自社工場は国内1ヶ所。協力工場多数。海外からの輸入もあり。売上規模100～200億円。

問題点／課題

本社管轄の物流拠点が関東圏の数ヶ所に分散。その他に全国の営業所に必要分を在庫しており、コスト増、在庫の不良化や偏在が問題となっていた。

実施内容と成果

- ・大阪支店の倉庫を移設拡充し、西日本の拠点としてスタートさせた。ただし、西日本物流拠点の在庫は原則短納期が要求される建設用資材のみとした。また、東日本の拠点も1ヶ所に集約。
- ・これに併せて各営業所の在庫を縮小。顧客への配送は可能な限り、本社倉庫拠点からの直送を利用し、営業効率のアップを図る。
- ・集約／拡充に当たってアウトソーシング先の変更も実施。
- ・配送面でも業者を集約し、配送コストの削減を目指した。
- ・**年間削減コストは約1億円。**

物流コストダウン事例

事例 3

リターンナブル資材の導入による包装資材費の削減

企業概要

業界大手の菓子メーカー。百貨店を中心に全国に200店舗以上出店。売上規模100~200億円。

問題点／課題

同社の菓子は個包装されているため、ボール紙製のトレーに入った商品を段ボール箱の中に段積みして配送していた。また、トレーの中の商品がつぶれないように柵やパッドで補強していた。この方法は資材費や組立てコストが掛かっており、改善が望まれた。

実施内容と成果

- ・包装資材メーカーの協力を得ながら、段積み可能な折りたたみトレーを開発した。(トレーと柵の一体化)
- ・工場⇄店舗間を往復する再利用可能なトレーとすることで、包装資材費の大幅削減を達成した。
(年間約5,000万円程度のコスト削減)
- ・折りたたみ可能で、組立も容易に行えるため、工場から店舗までのユニットロード化に成功した。
- ・また、これまでワンウェイで捨てられていたトレーをリターンナブル化できたことで、百貨店のゴミ削減に対する要望に応えることができた。

事例 4

保管棚の利用方法変更による棚効率の改善

企業概要

ペットフードメーカー。自社工場は国内4ヶ所。物流センターは東西2拠点。関西物流センターの保管パレット数は約2,500。

問題点／課題

同社は保管棚を固定ロケーションで運用していたため、棚使用率が60~70%を超えると、荷繰り作業が発生し、業務効率が悪化していた。

実施内容と成果

- ・保管棚を固定ロケーションとフリーロケーションに分割し、フリーロケーションから固定ロケーションに補充する方式を採用した。(固定ロケーションのフェイス縮小)
- ・これに伴い物流センターシステムを改造し、入出庫業務、補充業務が効率的に行える仕組みを確立した。
- ・フリーロケーションの導入により、棚使用率は90%を超えても問題なく利用できるようになった。
(棚使用率20%以上改善)

コンサルティングご契約までの流れ

弊社は、ご契約までにご相談・お打合せを重ね、お客様のニーズを的確に把握いたします。これにより、お客様のご要望にフィットしたコンサルティングが可能になると考えております。

お問合せ
ご相談
お打合せ

- ・事業概要の把握
- ・現状問題認識の確認
- ・アプローチ方法の検討

コンサルティング
企画書提出

- ・推進方法と内容
- ・推進スケジュール
- ・コンサルティング料 などの提案

ご契約

- ※・契約締結まで費用は発生いたしません。
- ・お客様からいただいた資料や情報の秘密は厳守いたします。

お問合せ先

株式会社 日本総合研究所
総合研究部門
主任研究員 大畑 邦夫
E-mail: rcdweb@mljri.co.jp

※本資料の著作権は株式会社日本総合研究所に帰属します。